

津驛。

ウシホツガタ 潮津潟 シホツガタ 潮津

ウシホツジンジャ 潮津神社

ウシマ 鷓島 珠洲郡直郷に属する部落。

延寶元年の書上に、『鷓島村與三兵衛家、弘法大師御入此方、只今迄九百年計異儀無之。其家に蚊居不申候。新宅之分には蚊居申候事。さて此家共かみ度々火災せし事を大師あはれみ、是を張置べしとて歌一首調筆して與へられし其歌、しも柱水の梁に雪の桁さす櫃までも水垂木かな。』とある。

ウジマ 鷓島 鳳至郡穴水郷之内大屋庄に属する部落。

ウシマサナガ 鷓島三箇 珠洲郡黒丸・鷓島・宗玄は、元和二年鷓島の一村を分割したものだといひ、その地域錯綜して甚だ辨別し難い。因つて鷓島三箇とも總稱する。能登名跡志に、『鷓島三所というて浦俣ひあり。黒丸村・鷓島村・宗玄村也云々。鷓島三ヶにて家三百軒餘あり。村の長さ二十町餘なり。』と記す。

ウシマノタキ 鷓島の瀧 珠洲郡鷓島を流れる川尻川の上流にある。能登名跡志に、『此川上に大瀧といふ瀧あり。此所の不動靈験あり。此瀧壺深きこと限なし。其上諸木茂り物すこき所なり。近郷の雨乞は此瀧にてする也。』とあるが、今は水嵩もなく、樹木も茂らない。

ウシマルシンザエモン 牛園新左衛門 御算用者小頭・御用所執筆となつて七十石を受け、後二十石を加へ、文化三年組外に列し、

十年に歿。子孫相續いて藩に仕へた。

ウシヤジ 牛屋地 鳳至郡神和住の内の小字。

ウシヤマガハラ 牛山ヶ原 源平盛衰記に壽永二年五月二日『平家は越前國を打隨へ、長畝城を立、齋明を先として加賀國へ亂入云々、先陣は安宅につけば、後陣は黒崎・橋立・追懸・塩越・熊坂山・蓮浦・牛山ヶ原まで列りたり。』とある、越登烈三州志にこの牛山ヶ原を江沼郡片野に近い牛ヶ鼻だとするが、加賀志微にはそれを失考として、越前坂井郡三國から吉崎に至る牛山村であるとして居る。後説が是であらう。

ウシロカハラマチ 後河原町 ↓カハラマチ 河原町。

ウシロタニ 後谷 鳳至郡久川の内の小字。

ウシロダニ 後谷 石川郡富樫庄に属する部落。改作所舊記に、元祿十一年五月金澤の笹塚喜兵衛が、後谷村領松色といふ所を試掘したけれども、かね弦が見えなかつた爲、一ヶ年許りで放棄したと記してある。

ウシロテンマチ 後傳馬町 金澤の舊町名で、今の裏傳馬町である。元祿九年地子町肝煎裁許附に、横傳馬町・後傳馬町と見える。

ウシロバタ 後島 鹿島郡矢田郷に属する部落。

ウシロマチ 後町 金澤の舊町名。本願寺文書永祿十年九月廿五日の麴室寄進狀に、金澤後町山崎新四郎とあるを初見とする。御城後町と書かれてゐることもある。位置は定かでないが、金澤古蹟志には今の尾山神社と城郭の間としてある。

ウシロヤマ 後山 鹿島郡の舊部落名。正

保・寛文・貞享の高辻娘に後山村とあるが、元祿の郷村名義抄には、此の村は能登部下村・上村の高と一所になつた爲、今はないと記してゐる。現に能登部下・上二村の枝村に後山分となつてゐるものはある。

ウスイケ 白池 鹿島郡佐味の内小字。

ウスガミネ 白ヶ峰 羽咋郡所司原の東方國境に在つて、丘陵の上部直に高く、その形白の如きを以て名を得た。高さ二六六米。その麓を過ぎて越中氷見に赴く道を白ヶ峰越といふ。

ウスダコウ 白田番 字は丹波。竹老・葉山又は陽山と號する。美濃の人。伊藤仁齋の門に遊び、古學を爲すこと十有餘年。程朱を排し、徂徠を斥け、最も能く論語を談じた。嘗て金澤に來寓し、深山安良等と風交があつた。著書に論語概論がある。

ウスキシチベエ 白井七兵衛 初めて百五十石を受けて御馬廻に班し、寶永六年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

ウスキジロザエモン 碓井治郎左衛門 諱は顯古。幼名直吉。梅嶺・魯堂・桂舎・無味齋の號がある。越中今石動中屋嘉平次の弟で、文政元年十九歳の時、石川郡鶴來米屋孝右衛門の嗣子となつた。既にして笈を京師に負ひ、猪飼敬所の門に入り、研鑽數年の後郷に歸り、家業を繼いで組合頭・算用・山廻役等の職に従つた。治郎左衛門資性濃厚、常に志士文人をその家に宿泊せしめ、又勤王の志を抱き、文久・元治の交屢京師の形勢を窺ふ爲に信書を往復したが、その外間に漏れるを恐れて多く之を熯いた。明治元年十二月十五日歿、享年六十九。後大正十三年二月十一日從

五位を追贈せられた。その俳諧に關する著に聽句要訣・作法要法・文藝がある。

ウスキノリナリ 白井憲成 加賀藩士で、歌道に志厚く、草の屋と號した。維新の後、金澤白髭神社献詠會の宗匠となり、門人が多かつた。明治十九年十月二日歿。著す所に雅言略解がある。

ウスキバイカ 碓井梅下 金澤の俳人。もと足輕であつたが、後に神職となつた。明治十四年三月淺野屋北洲に繼いで梅雪庵二代を繼席し、廿一年九月四日歿した。享年不詳。

ウスキバイシ 碓井梅枝 石川郡鶴來の俳人。梅夫の子で、文政四年正月九日歿した。享年六十六。

ウスキバイドウ 碓井梅堂 石川郡鶴來の俳人。梅嶺碓井治郎左衛門の養嗣子で、諱を顯永といひ、明治五年六月享年四十七を以て歿した。

ウスキバイフ 碓井梅夫 石川郡鶴來の俳人。通稱を米屋與三兵衛といひ、諱を忠家といふた。安永四年正月十八日歿、享年七十。

ウスキヤサエモン 白井安左衛門 小字は虎。越前の人。父は源兵衛。初め佐久間安次に仕へ、後に高島定吉に仕へた。天正十一年末森の役に陣出して功を立て、利家より感状を賜はり、後今石動城主前田又次郎利秀に仕へ、利秀の歿後利長に屬し、四百俵を賜はり、馬廻組となつた。寛永十六年四月歿。齡八十五六。子孫第七世虎之助の時文政十一年祿三の一中早世して斷絶した。

ウセツ 宇出津 ↓ウシツ 宇出津。

ウタウラ 歌占 謠曲の名。觀世世阿彌元清の作。伊勢國二見浦の神職度會の某が、加